

## 実践研究

# 実践し省察するコミュニティ ー 福井大学連合教職大学院での学びとは ー

中 島 才 喜

岐阜聖徳学園大学附属小学校（大学院福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科）

## The implementation of community reflection Study at Fukui University's RENGU Graduate School of Education

Saiki NAKASHIMA

キーワード：省察 実践 協働 学校拠点方式 長期実践報告

### I. はじめに

私は、平成29年4月から福井大学大学院教育学研究科教職開発専攻ミドルリーダーコースで学ぶ機会をいただいた。その翌年である平成30年4月、福井大学、奈良女子大学、岐阜聖徳学園大学の三大学による連合教職開発研究科（以下福井大学連合教職大学院と記す）が発足した。平成30年度からは、本学園の附属中学校から1名と、羽島市内の公立小学校から1名の現職教員が福井大学連合教職大学院に入学された。

本論では、福井大学連合教職大学院での2年間（本記録を記す時点では1年半）の学びについて、自分自身の省察をするとともに、福井大学連合教職大学院での学びの概要について紹介することを目的とする。なお、自身の具体的な省察や実践内容については、現在作成中である長期実践報告に掲載するため、ここでは省略させていただく。

### II. 福井大学教職大学院の特色

本章では、福井大学連合教職大学院の特色や学びの内容についてふれる。

#### 1. 専攻コース

福井大学連合教職大学院教育学研究科教職開発専攻には、表1のように3つのコースがある。

表1 福井大学連合教職大学院にある3つのコース

専攻コース名	在籍する院生
教職専門性開発コース	ストレートマスター
ミドルリーダー養成コース	現職の教員（教務主任や生徒指導主事、研究主任などの立場）
学校改革マネジメントコース	現職の教員で、管理職または教務主任や生徒指導主事、研究主任などの立場（次期管理職候補の方も在籍）

月間カンファレンスや集中講座、ラウンドテーブルにおいては、その名の通りテーブルを囲んで、5名程度のグループ単位で実践を交流する。グループ構成は、教職専門性開発コース、ミドルリーダー養成コース、学校改革マネジメントコースが混在するようになっている。さらに、各テーブルには、大学教員がファシリテーターとしてつく。

#### 2. 学校拠点方式

福井大学連合教職大学院の特色のなかで、大きな特色の1つが学校拠点方式である。一般的な大学院は、何年間か現場を離れ、大学キャンパスに出向いて講義を受ける。学校現場での実習もあるが、それはごく短期間である場合が多い。

一方、福井大学連合教職大学院は、教育の課題は学校現場にありという考えのもと、「所属校に勤務しながら、学校現場での実践の中で課題を見出し、大学教員や職場の仲間との協働実践力を高めていく」

という方式をとっている。そのため、院生は自分の所属校において通常の勤務を続けながら、そこでの実践をメインにして学びを深めていく。これが、学校拠点方式である。

学校拠点方式の単位認定にあたって、1年次にミドルリーダー実習がある。これは毎月、勤務時間を除いて15時間以上の実習が必要である。ここでいう実習とは、所属校における自分のテーマに基づいた実践を指す。毎日、実習した時間を表に記入して押印し、所属校長印をいただいて福井大学連合教職大学院に提出する。

### 3. 学校行事に配慮した集中的な講座の開設

2で記したように、普段の実践は所属校が中心となる。福井大学（文京キャンパス）へ出向いて受ける講義として、大きく分けて次の3種類がある。

（1）月間合同カンファレンス（以下、カンファレンスと記す）

Ⅲの年間スケジュールで詳細を記すが、4、5、7、10、11月には、月に1度（4月のみ土、日の2日間で他の月は土曜日のみ）福井大学文京キャンパスへ行って講義を受けたり、実践を語り合ったりする場がカンファレンスである。学校行事に配慮し、毎月、A日程またはB日程（例えば第2土曜日か第4土曜日）のうちから選択できるようになっている。また、遠方からの通学や、勤務への負担を考慮し、4月以外は14時半頃に終了する。私が在学中には、奈良や関東から参加の院生や、九州、関西、東北など日本各地および海外からの視察（教育委員会等からの派遣）も度々あった。

（2）夏期および冬期集中講座（以下、集中講座と記す）

夏の集中講座は、Cycle 1 から Cycle 3 まであり、1サイクルは3日間で構成されている。したがって、夏の集中講座は計9日間の出席が必要となる。平成30年度においては、Cycle 1 および Cycle 2 のうちそれぞれ2日間を、福井大学とインターネット回線でつないで岐阜聖徳学園大学で受講できた。ちなみに、(1)の月間カンファレンスにおいても、福井大学（文京会場）と奈良女子大学、嶺南会場（福井県嶺南教育事務所）、東京会場（板橋区立赤塚第二中学校）というように、インターネット回線で複数の会場をつないで開講される月がある。

冬の集中講座は、1年次が3日間、2年次は6日間の出席が必要となる。したがって私は、12月の年末に4日間、新年が明けてから2日間の合計6日間出席する予定である。

（3）ラウンドテーブル

実践研究福井ラウンドテーブルと呼ばれるもので、福井県内外のみならず、海外からの参加者もある。驚くことに、教員のみならず他の職種（例えば介護福祉施設の職員）や他大学の教育関係ではない学部生や院生の参加者もいる。2月と6月の年2回開かれ、それ以外の月には信州や東京、長崎など福井県以外で開催される。その名の通り、1テーブルに4～6名程度が集い、ファシリテーターのもとで実践を語り合い、聴き合うものであり、院生は発表が義務づけられる時もある。

福井大学教職大学院の研究科長である松木健一先生が、ラウンドテーブルの意義について「他者の実践を自分の文脈に置き換えて聴くこと」だと説明してくださったことがある。実際に私は、介護福祉施設の方とご一緒したことがあるが、不思議なことに教育現場で働く自分との共通点が見えてくる。そして、自分の実践にいかすことができそうなヒントをたくさんいただいた。したがって、自分の知見が広がるとともに、児童と接する教員として、人と接し、人を育てるということをそれまでよりも広義な意味で考えるようになる。

院生には、1人90分の発表（質疑応答を含む）が義務づけられ、ファシリテーターも体験する。

（4）レポートの提出

月間カンファレンスや集中講座、ラウンドテーブル参加日から1週間をめどに、レポートを提出する。レポートは、ウェブ上でアップロードできる。レポートの中には、他校の研究会に参加（2校以上）して学んだことをまとめるものもある。

### 4. 長期実践報告

大きな特色の2つ目として、長期実践報告の作成がある。一般的な教職大学院では、修了時に修士論文を作成する。福井大学教職大学院では、修士論文に代わるものとして、長期実践報告書を作成する。

長期実践報告書は、院生が個々のテーマを軸として自身の実践を振り返りながら、過去の実践に意味づけをしたり、在学中の実践を記録したり、今後の方向を見出したりした記録である。

院生は、2年次の1月末までに担当教官のご指導をいただきながら原稿を提出し、完成原稿を2月初旬の長期実践報告会や、2月中旬のラウンドテーブルで発表する。製本した冊子は、教職大学院初年度分から順に教職大学院の本棚に保管されており、院生が月間カンファレンスなどで読んで活用する。

### 5. 岐阜聖徳学園大学独自の取り組み

福井大学の担当教員に加え、本大学の寺田光宏先生、柘植良雄先生、吉田琢哉先生が指導教官としてついでくださり、チームでサポートしていただいている。特に、寺田先生には、週に1度のゼミで理科の専門的な実践にかかわる内容や新学習指導要領にかかわる内容など、長期実践報告に向けた実践につながる理論についてご指導をいただいている。

平成30年度からは、本学附属中学校の伊藤和幸先生も一緒に、資質・能力にかかわる理論書を輪読したり、福井大学連合教職大学院生としてのテーマに基づく実践にかかわるご指導をいただいたりしている。

## Ⅲ. 実践内容詳細

以下に、教職大学院1年次と2年次のスケジュールと内容について、平成29年度と30年度を例に記す。なお、紀要提出時期の関係上、2年次の11月以降は予定である。

以下の表は、カンファレンスやラウンドテーブル、集中講座で配布された資料および教職大学院Newsletterをもとに、著者が作成した。

月	日	平成 29 年度 教職大学院 1 年次	日	平成 30 年度 教職大学院 2 年次
4	8	開講式（福井大） ○オリエンテーション	7	開講式（福井大） ○オリエンテーション
22	第1日	カンファレンス（福井大）「教育改革の展開を踏まえ、長期的な実践の展望をひらく 学校拠点長期実践研究を展開するために＜実践的な教職大学院入門＞」 ○自己紹介（1人20分 グループ①） ○「長期実践報告」を読み、感想を紹介し合う。（1人20分程度 グループ②）	28	カンファレンス（福井大）「教育改革の展開を踏まえ、長期的な実践の展望をひらく 世代を結ぶ協働探求のコミュニティ その出発サイクル 専門職としての実践力を培う協働探究のための実践的提案」 ○Cycle 1 自己紹介（1人20分グループ①） ○Cycle 2 資料を読み、内容や感想を紹介し合う。（1人20分程度 グループ②） ○どの長期実践報告を読むのか相談し合い、選んだ長期実践報告を読む。
23	第2日	カンファレンス ○長期実践報告を読む。記録を通して現実的な力量形成のプロセスを探る。実践の展開や実践者としての成長、それを支える要因を読み取る。 ○自分のことについても考察する。 ○パソコンで簡単なレジュメを作成 ○クロス・セッション レジュメの報告（1人20分程度 グループ①） ○自分の実践を紹介する。学校における組織をめぐる実践と経緯を語り合う。（1人20分程度 グループ③）	29	カンファレンス ○Cycle 3 長期実践報告を読む。／専門職としての実践と学びのプロセスを探る。（グループ②） ○パソコンで簡単なレジュメを作成 ○クロス・セッション 作成したレジュメを報告（1人20分程度 グループ①） ○Cycle 4 省察と展望 教育改革の方向性、専門職としての実践と学びの跡づけを踏まえ、今後の実践と学びの方向性と課題を探る。
5	20	カンファレンス（福井大）「学校での協働研究の現状を踏まえて、これからの展望をひらく」	19	カンファレンス（福井大）「学校での協働研究の現状を踏まえて、これからの展望をひらく」

		<p>○オリエンテーション「学校での協働探究の現状を踏まえて、これからの展望をひらく—その意味と実践—」（三国南小学校 齋藤実紀夫先生）</p> <p>○セッション 学校で動き始めた状況を語り合い、捉え直し、展望をひらく。（1人20～30分 グループ①）</p> <p>○専門教科・領域の授業づくりとカリキュラムマネジメントの実践記録を読む。</p> <p>○クロス・セッション 読んだ実践記録について、学習者の成長、コミュニケーションの発展と形成過程、それらを支える教師の実践とコミュニティの在り方を探る。（1人15～20分 グループ②）</p>	<p>○実践報告「学校での協働研究の現状を踏まえて、これからの展望をひらく—その意味と実践—」（羽水高等学校 川崎直樹先生）</p> <p>○セッション 学校で動き始めた状況を語り合い、捉え直し、展望をひらく。（1人20～30分 グループ①）</p> <p>○資料を読む。変わる試験問題と求められる学習</p> <p>○実践記録を読む。4月のカンファレンスでの教育改革の基軸の確認、学力テスト転換の方向性の確認を踏まえながら、求められる探求的な学習のプロセスとデザインを実践記録の中に探る。</p> <p>○クロス・セッション（1人5～8分 グループ②）</p>
6	23	<p><b>実践研究 福井ラウンドテーブル 2017 summer sessions（福井大）</b></p> <p>○プレセッション</p>	<p><b>実践研究 福井ラウンドテーブル 2018 summer sessions（福井大）</b></p> <p>○プレセッション（欠席）</p>
	24 第2日	<p>○ナレッジ・フェア（ポスターセッション）</p> <p>○シンポジウム ZoneD 授業研究 子どもと教師の学びを支えるため授業研究・保育研究をいかに組織するか。</p> <p>○フォーラム 多様な研究から学ぶ。</p>	<p>23 第2日</p> <p>所属校行事（運動会）のため欠席</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>勤務のためやむを得ず欠席する場合、他県のラウンドテーブルに参加するなどの代替措置を要相談。</p> </div>
	25 第3日	<p>○ラウンドテーブル・クロスセッション「実践の長い道行きを語り、展開を支える営みを聞き取る。」</p> <p>○聞き手として参加し、発表から学ぶ。</p>	<p>24 第3日</p> <p>○ラウンドテーブル・クロスセッション「実践の長い道行きを語り、展開を支える営みを聞き取る。」</p> <p>○発表1で100分発表（質疑応答を含む）</p>
7	8	<p><b>カンファレンス（嶺南教育事務所）</b></p> <p>○セッション 前期の実践を振り返り、課題を捉え直す。（グループ①）</p> <p>○他校の研究会等、前期に実践した授業や参観した授業について語り、聴き、後期の展望をひらく。（グループ②）</p>	<p>7</p> <p><b>カンファレンス</b></p> <p>※台風接近による悪天候が予想されるため、レポートによる代替措置となる。</p> <p>○カンファレンスで話そうと考えていたことについて、レポートにまとめ提出した。</p>
	24 第1日	<p><b>集中講座 2017 Summer Cycle 1 A（福井大）「長期にわたる学習の展開とそれを支える教師の実践とその組織」</b></p> <p>○実践記録を読む。福井大学教育地域科学部附属中学校 『学び合う学校文化』エクシード 2011.</p> <p>○実践記録の分析を通し、展開、カリキュラムのデザイン、学習者の成長を読み解き考えたこと・学んだことをグループで紹介し合う。</p> <p>○特別講義「2030年を見据えた教育改革の最新動向」OECD Education 2030で行われている DeSeCo キー・コンピテンシー</p>	<p>23 第1日</p> <p><b>集中講座 2018 Summer Cycle 1 A（第1日、第2日は岐阜聖徳大、第3日は福井大）「長期にわたる学習の展開とそれを支える教師の実践とその組織」</b></p> <p>○実践記録を読み進める、読み味わう。『学校を変える力 イースト・ハーレムの小さな挑戦 デボラ・マイヤー 北田佳子 訳』</p> <p>○考えたこと・学んだことを紹介し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>1、2日目のみ、岐阜聖徳学園大学にて受講。インターネット回線でつなぎ、福井大での全体説明を聞く。</p> </div>
	25	○互いの進め方を紹介し合う。	<p>24</p> <p>○互いの進め方を紹介し合う。</p>



	第2日 26日 第3日	<p>○さらに読み進める。／関連する記録を検討する。</p> <p>○小レポートの作り方を確認する。</p> <p>○記録・研究の検討／評価の部分をまとめ、レポートの全体を作り印刷する。</p> <p>○グループを超えた総括的な報告と検討</p>		<p>○さらに読み進める。／関連する記録を検討する。</p> <p>○小レポートの作り方を確認する。</p> <p>○記録・研究の検討／評価の部分をまとめ、レポートの全体を作り印刷する。</p> <p>○グループを超えた総括的な報告と検討</p>
7	31日 第1日	<p><b>集中講座 2017 Summer Cycle 2 A (福井大)「実践の架橋理論の検討 実践コミュニティ・アイデンティティ・専門職としての成長過程」</b></p> <p>○テキストに沿って探究を迫体験する。</p> <p>○チームの確認と打ち合わせ 選択するテキストを紹介し合う。</p> <p>(1 年目のメンバーは E. ウェンガー他『コミュニティ・オブ・プラクティス』櫻井祐子訳, 2002.)</p> <p>○必要に応じて相談しながら選択したテキストについて検討を進める。</p> <p>○自分が考えたことを紹介し合う。</p> <p>○特別講義「子ども経験世界への接近」</p>	30日 第1日	<p><b>集中講座 2017 Summer Cycle 2 A (第1日、第2日は岐阜聖徳大、第3日は福井大)「実践の架橋理論の検討 実践コミュニティ・アイデンティティ・専門職としての成長過程」</b></p> <p>○チームの確認と打ち合わせ それぞれが取り上げるテキストを確認する。(小グループ)</p> <p>○必要に応じて相談しながら選択したテキストについて検討を進める。(個別)</p> <p>『学習する組織』ピーター・M・センゲ(枝廣淳子・小田理一郎・中小路佳代子訳 英治出版, 2011.)</p> <p>○自分が読みながら考えたことを紹介し合う。(小グループ)</p>
8	1日 第2日	<p>○テキストに沿って追体験する (2)</p> <p>○必要に応じて相談しながら選択したテキストについて検討を進める。(個人)</p> <p>○小レポートのまとめ方について相談する。(小グループ)</p>	31日 第2日	<p>○進め方についての確認 (全体)</p> <p>○進め方についての打ち合わせ (小グループ)</p> <p>○小レポートのまとめ方について相談する。(小グループ)</p>
	2日 第3日	<p>○必要に応じてテキストの検討を進めつつ、小レポートをまとめ印刷する。</p> <p>○クロス・セッション 小グループを超えたメンバーで、それぞれの読みと思考を共有する。</p>	1日 第3日	<p>○必要に応じてテキストの検討を進めつつ、小レポートをまとめ印刷する。</p> <p>○クロス・セッション 小グループを超えたメンバーで、それぞれの読みと思考を共有する。</p>
9	21日 第1日	<p><b>Cycle 3 B (福井大)「自分自身の実践の展開をとらえ直し表現する」</b></p> <p>○チームでの自己紹介・進め方の確認</p> <p>○必要に応じて相談しながらそれぞれの報告をまとめる。(個人)</p> <p>○全体での確認</p> <p>○進め方についての打ち合わせ (グループ)</p> <p><b>「実践の長期にわたる展開の稜線と重要な細部をとらえ直す」</b></p>	20日 第1日	<p><b>Cycle 3 B (福井大)「自分自身の実践の展開をとらえ直し表現する」</b></p> <p>○チームでの自己紹介・進め方の確認</p> <p>○必要に応じて相談しながらそれぞれの報告をまとめる。(個人)</p> <p>○全体での確認</p> <p>○進め方についての打ち合わせ (グループ)</p> <p><b>「実践の長期にわたる展開の稜線と重要な細部をとらえ直す」</b></p>
	22日 第2日	<p>○チームでの確認</p> <p>○必要に応じて相談しながらそれぞれの報告をまとめる。(個人)</p> <p>○全体での確認 グループでの相談</p>	21日 第2日	<p>○チームでの確認</p> <p>○必要に応じて相談しながらそれぞれの報告をまとめる。(個人)</p> <p>○全体での確認 グループでの相談</p>
	23日 第3日	<p>○グループでの確認</p> <p>○必要に応じて相談しながらそれぞれの報告をまとめ、印刷する。(個人)</p> <p>○到達点の確認 (グループ)</p>	22日 第3日	<p>○グループでの確認</p> <p>○必要に応じて相談しながらそれぞれの報告をまとめ、印刷する。(個人)</p> <p>○到達点の確認 (グループ)</p>

10	7	<p>カンファレンス（福井大）「新しい世代を支え学び合う 長期実践報告・1 年目のまとめの構想に向けて」</p> <p>○ガイダンス 若い世代・新しい世代を支える学校をつくる。学校が直面する課題を見据える。（松木健一先生）</p> <p>○オリエンテーション 「新しい世代を支え学び合うことの意味」 加畑重樹先生（武生南小学校）</p> <p>○セッション 新しい世代を支え学び合う自身の経験と取組、長期実践報告・1 年目のまとめの構想を語り合う。（グループ①）</p> <p>○自分自身の実践の挑戦を語る。授業実践の挑戦、探求の過程を語り合い、聴き合い、検証し合う。（グループ②）</p>	13	<p>カンファレンス（福井大）「新しい世代を支え学び合う 長期実践報告・1 年目のまとめの構想に向けて」</p> <p>○ガイダンス 若い世代・新しい世代を支える学校をつくる。学校が直面する課題を見据える。</p> <p>○オリエンテーション 「新しい世代を支え学び合うことの意味」 安田雅之先生（遠敷小学校）</p> <p>○セッション 新しい世代を支え学び合う自身の経験と取組、長期実践報告の構想を語り合う。（グループ①）</p> <p>○自分自身の実践の挑戦を語る 授業実践の挑戦、探求の過程を語り合い、聴き合い、検証し合う。（グループ②）</p> <p>○長期実践報告作成のガイダンス</p>
11	11	<p>カンファレンス（福井大）「他校の研究から学び、他校の研究会を支える 長期実践報告・1 年目のまとめの構想に向けて」</p> <p>○グループ・セッション 他校の研究から学ぶ経験、他校の研究を支える経験を語り聴き合う。（グループ①）</p> <p>○グループ・セッション 授業実践の挑戦、探求の過程を語り聴き合う。長期実践報告・1 年目のまとめの構想を語り合う。（グループ②）</p>	10	<p>カンファレンス（福井大）「他校の研究から学び、他校の研究会を支える 長期実践報告・1 年目のまとめの構想に向けて」</p> <p>○長期実践報告作成のガイダンス</p> <div> <p>1 月末の原稿完成に向けたスケジュールと、読み手（原稿完成までに指導をいただく大学教員）2 名が決まる。（岐阜・福井各 1 名）</p> </div>
12	<p>集中講座 Cycles 2017-18 Winter Sessions（福井大）「公教育の課題／学校と社会」Cycle 1</p> <p>25 第 1 日</p> <p>26 第 2 日</p> <p>27 第 3 日</p>	<p>○グループごとに進め方について確認</p> <p>○それぞれの実践報告づくりを進める。</p> <p>○グループごとにそれぞれの取り組みの当面している課題について話す。</p> <p>○グループごとに進め方について確認、その後個別作業</p> <p>○省察と記録の作成</p> <p>○グループごとの確認</p> <p>○必要に応じて相談</p> <p>○グループごとに進め方について確認、その後個別作業</p> <p>○省察と記録の作成</p> <p>○書き進めてきた記録を紹介し合う。</p>	10	<p>この日までに、長期実践報告の読み手担当）に、構想・内容を相談しておく。</p> <p>この日までに長期実践報告作成のためのメモを作る。</p> <p>集中講座 Cycles 2018-19 Winter Sessions Cycle 1（第 1 日、第 2 日は岐阜聖徳大、第 3 日は福井大）</p> <div> <p>日頃の実践をこまめに記録に残す。ただし、長期実践報告は単なる記録の羅列ではなく、自分のテーマの筋が通ったストーリーにする。</p> </div> <p>28 ○長期実践報告の作成</p> <div> <p>パソコンは福井大で借りることもできる。その場合、長期実践報告作成に必要なデータを忘れず持参する。</p> </div>
1		<div> <p>ラウンドテーブル時の宿泊予約は早めに。</p> </div>	4.5 14 28	<p>Cycle 2 ○長期実践報告の作成</p> <p>遅くともこの日までに第 1 稿を作る。</p> <p>長期実践報告完成原稿提出締切日</p>
2	4	<p>長期実践研究報告会（福井大）</p> <p>○2、3 年生の方の発表を聴き、学ぶ。</p>	3	<p>長期実践研究報告会（福井大）</p> <p>○長期実践報告を発表する。</p>

		<b>実践研究福井 ラウンドテーブル 2018 Spring Sessions (福井大)</b> 16 ○プレセッション (欠席) 17 ○オリエンテーション 第2日 ○シンポジウム ZoneD 授業研究：子どもと教師の学びを支えるために授業研究－保育研究をいかに組織するか－ ○フォーラム テーマ別に話し合い問いを深める。 18 ○ラウンドテーブル・クロス・セッション 第3日 実践の長い道行きを語り、展開を支える営みを聞き取る。		<b>実践研究福井 ラウンドテーブル 2019 Spring Sessions (福井大)</b> 15 ○プレセッション 16 17 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             1年次、2年次ともに発表が義務づけられている。発表は、ポスターセッションの方もあれば、長期実践報告の方もある。1人90～100分となっているが、全てが発表時間ではなく、60分程度発表して、残りの時間はファシリテーターのもとで意見交流する。海外からの参加者もある。           </div>
3	23	<b>学位記伝達式・平成 29 年度 再出発カンファレンス</b> ○学位記伝達式 ○懇親 (再出発カンファレンス)	22	<b>学位記伝達式・平成 30 年度 再出発カンファレンス</b> ○学位記伝達式

#### IV. 成果と課題

##### <成果>

- ・全国学力学習状況調査の結果が上位である福井県の実践をはじめ、国内外の様々な実践から学ぶことができる。また、最新の教育動向に関する情報や、先進的な実践を知ることができる。
- ・福井大学の担当教員に加え、本大学の寺田光宏先生、柘植良雄先生、吉田琢哉先生が指導教官としてついでくださり、チームでサポートしていただいている。特に寺田先生には、毎週のゼミで理科の実践に関する内容や、福井での学びと岐阜での実践をつなぐ内容をご指導いただいている。
- ・カンファレンスでは、コースを超えて様々な役職、立場の方と実践を語り合い、学ぶことができる。現場の生の声なので共感しやすく、すぐに実践にいかすことができる。学校のマネジメントに関する視点についても学ぶことができる。
- ・ラウンドテーブルでは、異職種の方から学校教育に対する客観的な意見を聴くことができる。児童という枠を超え、人間を育てることの責任とやりがいについて深く考える機会となる。
- ・教科横断的な視点や一単位時間では完結しない子どもの学びの見取り、テストの点数だけでは測れない資質・能力など、様々な角度から省察できるようになってきた。
- ・岐阜からの参加、しかも私学という珍しさから興味を持っていただけた。大学の教員採用率が高いことをご存知の方も多く、「岐阜聖徳」として一定の注目を浴びるようになったと感じている。
- ・自分自身の教員人生を省察し、初心を思いだすとともに所属校である岐阜聖徳学園大学附属小学校で大事にしたい教育や、ミドルリーダーとしての役割について具体化できつつある。

##### <課題>

- ・所属校に勤務しながらというコンセプトではあるが、福井大学連合教職大学院で学ぶにあたり、校務分掌や仕事の負担について配慮していただいた分、職場の先生方にご負担をおかけしている。
- ・福井大での学びは、特定の教科における専門性を磨くという目的よりは、教科横断、カリキュラムマネジメントといった色が強い。教科の専門性については、岐阜でのゼミで磨かせていただいているが、ゼミの時間帯が児童の下校前だと、担任としては職場を離れるのに不安が残る。
- ・自分が福井で学んできたことを職場の仲間に広めることが十分にできていない。福井で学んだことのよさを伝えつつ、私学・聖徳オリジナルを追い求めていくことが重要である。
- ・福井大のコンセプトである、他者との協働やコミュニティという視点で見ると、所属校においてまだ

まだ十分にできていない。

- ・自家用車だと岐阜聖徳学園大学から約2時間、約150kmなので日帰りで十分に対応できる。ただし、冬期は積雪や路面凍結が懸念されるため、公共交通機関での移動が安全である。その場合、9時半からのスタートに余裕をもって間に合わせるには、早い時間の電車に乗る必要がある。また、宿泊を伴う場合の負担が伴う。ラウンドテーブル時は混雑するため、早めに宿泊予約をしたい。

## V. 省察することの意義

福井大学連合教職大学院に入学する前の説明会やラウンドテーブルで何度も耳にした「省察」という言葉。省察とは、自分自身の実践をふり返し、過去の実践の意味や今後の実践の展望について考えるという意味である。教職大学院を志した当初、私は、理科の専門性を磨きたいと考えていた。実際に入学して初めのうちは、「大学院に行って、実践を語り合うだけで大丈夫だろうか。」とか、「理科の話はなかなか出てこないなあ。」と正直に言えば不安を感じていた。

しかし、カンファレンスを重ねるうちに、「語るためには、ふだん所属校で実践を重ねておかなければならない。」と気づいた。そして、自分の実践をうまく語れない部分は、自分では分かっているつもりだったが、実は目的や方法が不明確な部分であることに気づいた。それでも、グループの仲間やファシリテーターは、不備を指摘するのではなく、傾聴し、熱心に質問をしてくださる。やりとりを重ねていくうちに、不明確だったものがだんだんと明確になり、再び所属校で実践を頑張ろうという気持ちになる。自分の話に傾聴し、語り合う仲間がいることのありがたさを痛感する。

逆に、自分が他の院生の実践に傾聴し、質問や意見を述べるうちに、教科や立場が違うのに共通点が見えてきて、自分の実践につなげられそうなヒントを得る。そこで、協働意識が生まれる。

語るだけではやがて消えていってしまうが、それをレポートや長期実践報告にまとめることで、再度、自分の実践やカンファレンスでの学びを長いスパンで省察することになる。そして、今度は消えないようにしっかりと記録に残す。教科の専門性のみに焦点を当てた学びは少ないが、教科や校種を超えた横断(縦断)的な視点や、カリキュラムマネジメントについて学ぶことができる。さらに、各単元の知識・技能やテストの点数だけではなく、一時間、一単元の授業が終わっても、子どもの中では終わらずに続く学びを「見取る」方法についても、福井で改めて学んだ。新しい学習指導要領で重視されている、資質・能力や学びに向かう力などについても学ぶことができた。福井大学教職大学院における省察には、大きな魅力と可能性を感じる。今後も、常に省察と実践を繰り返していこうと思う。

## 謝辞

福井大学教職大学院で学ばせていただくにあたり、入学試験の段階から様々な方に支えていただき、ご尽力いただいた。また、在学中にもたくさんの方にご指導やご助言をいただいた。

職場の先生方には、福井大学教職大学院で学ぶにあたり、校務分掌の面で配慮していただいたり、様々な場面で助けていただいたりした。

担任学級の児童、保護者の皆様にも、ご理解とご協力をいただいた。私の学びを支え、助けてくださったすべての皆様に心から感謝する。福井大学連合教職大学院での自分の学びが、岐阜聖徳学園大学附属小学校に役立つよう、残り半年はもちろん、修了後も学び続け、恩返しに努めたい。